

## 小学生高学年の部



### 一人の女の子から

東松島市立赤井南小学校 4年 稲辺 莓

「ちょっと、いつまでも水を出しっぱなしにしないで。」

「いいじゃん。だってタダなんでしょ？」

私は小さいころ、水は、生活している全ての家に自ぜんに流れてくるものだと思っていました。だから、いつも水を出しっぱなしで使っていて、大切にみつかっていませんでした。

そんな私を見て、お父さんが、エチオピアに住んでいる13才のアイシャという女の子の1日をとったDVDを見せてくれました。「水を得るためにどのくらいの時間がかかるでしょうか？」というしつ間で始まります。私は初め、そのしつ間の意味が分かりませんでした。アイシャは、朝6時半にラクダにポリタンクをのせて一人で家を出ます。アイシャが水を飲んで帰るまでにかかる時間はなんと8時間。日本に住む私達が、学校で楽しく勉強したり、友達と遊んでいる時間です。

アイシャが8時間もかけてくんできた水は、茶色くにごっています。私はきれいな水を毎日飲むのが当たり前だったので、「そんなの飲むの」とびっくりしました。そのにごった水を、アイシャや家族は、料理に使ったり、食器を洗ったりしていました。8時間もかけてくんできた水の量は、たったの5リットルしかないのに、家族一人一人が大切に大切に使っていました。

多くの国々では、水くみは子どもの仕事とされているそうです。そして、やっとかんできた水はけっしてきれいではなく、その水を飲んだために命を落としてしまう子どもが、毎日800人以上もいるそうです。生きるために飲まなくてはならない水が原因で死んでしまうなんて、私はふくざつな気持ちになりました。

「世界では、じゃ口をひねって、水道水が安全に飲める国は15か国ぐらいしかないんだよ。」とお父さんが教えてくれました。私は「そんなに少ないの？」と思いました。世界中の人全員が、安全でおいしい水を毎日飲んでいると思っていたからです。しかし、現実がちがっていました。アイシャのように、1日の生活全てを水くみについやしている子どももいれば、水は出るけれど、清けつではない水を飲んでいる国がたくさんあることが分かりました。

だから私は、家族のために長い時間をかけて水をくみ、大事に使っているアイシャやその家族を見習いながら、水をむだづかいしないようにしなければと心にちかいました。現在では、お風呂に入る時は、シャワーをあまり使わずにお風呂のお湯を使うようにしたり、洗いものを洗う時はおけにためながら洗ったり、歯みがきの時はコップにくんだ水でうがいをするようにしています。おばあちゃんやお母さんは、お風呂の残り湯を洗たくや掃除にも使っています。庭に水をまく時も、天気予報で雨がふる日を確認して、水やりを調整しています。

日本は、じゃ口をひねれば、すぐにおいしい水が出てくる本当にめぐまれている国だとアイシャのDVDを見てあらためて分かりました。

私は願っています。そう簡単にはいかないかもしれませんが、アイシャのように水くみで1日の大半を過ごしている世界中の子どもたちが、毎日きちんと学校に行くことができ、たくさんの友達と笑顔で勉強したり遊んだりできる社会になることを。

アイシャへ

お元気ですか。

水くみはずっと続けているのですか。

どうか体だけはこわさないでね。

アイシャの子ども達の時代には、とう明で、きれいで、おいしい水がいっぱい飲めるようになるといいね。